

「第4次札幌市食育推進計画」(案)に対する 市民意見の概要と札幌市の考え方

札幌市では、「第4次札幌市食育推進計画」(案)について、市民の皆様からのご意見を募集いたしました。

このたび、お寄せいただいたご意見の概要とそれに対する札幌市の考え方をご報告いたします。なお、ご意見は、その趣旨が変わらない程度に取りまとめ、要約して示しておりますことをご了承ください。また、計画案と直接関係がないご意見、お名前等の記載のないご意見については、公表しておりません。

市民の皆様から寄せられた貴重なご意見を参考にしながら、今後とも市民の皆様が健やかで豊かな食生活を送ることができるよう食育を推進してまいります。

令和5年(2023年)12月 札幌市保健所健康企画課

札幌市中央区大通西19丁目 WEST19
電話 011-676-5156 FAX 011-622-7223

<https://www.city.sapporo.jp/hokenjo/syokuiku/keikaku/dai4zikeikakuann.html>

1 意見募集実施の概要

(1) 意見募集期間

令和5年10月13日(金)から令和5年11月13日(月)まで (32日間)

(2) 意見提出方法

ホームページ上の意見入力フォーム、電子メール、郵送、持参

(3) 資料の配布・閲覧場所

- 札幌市保健所健康企画課
- 健康づくりセンター(東・西)
- 市役所本庁舎市政刊行物コーナー
- 各区保育・子育て支援センター
- 各区役所(総務企画課広聴係)
- 札幌市立各小・中・高・特別支援学校
- 各区保健センター
- 札幌市公式ホームページ
- 各まちづくりセンター

2 意見募集の結果

(1) 意見提出者数・意見件数

ア パブリックコメント(大人の意見) 87名、94件

イ 小・中学生コメント(子どもの意見) 166名、274件

(2) 年代・提出方法別内訳

項目	年代	総数	意見フォーム	メール	郵送	持参
大人の意見	10歳代	80	0	80	0	0
	20歳代	0	0	0	0	0
	30歳代	0	0	0	0	0
	40歳代	1	1	0	0	0
	50歳代	4	3	1	0	0
	60歳代	1	1	0	0	0
	70歳代	0	0	0	0	0
	80歳代以上	1	0	0	0	1
	小計	87	5	81	0	1
子どもの意見	小学3年生	1	1	0	0	0
	小学5年生	15	14	0	1	0
	小学6年生	42	42	0	0	0
	中学1年生	74	64	0	10	0
	中学2年生	14	2	0	12	0
	中学3年生	20	9	0	11	0
	小計	166	132	0	34	0
総計		253	137	81	34	1

(3) 意見内容別内訳

項目	件数			構成比
	大人	子ども	計	
計画全体	3	20	23	6%
第1章 計画の策定にあたって	0	0	0	0%
第2章 第3次札幌市食育推進 計画の取組と評価	2	11	13	4%
第3章 基本理念と基本目標	0	0	0	0%
第4章 施策の体系と展開	43	61	104	28%
第5章 計画の推進	0	0	0	0%
その他	46	182	228	62%
合計	94	274	368	100%

■パブリックコメント(大人の意見)概要とそれに対する札幌市の考え方

意見の概要	札幌市の考え方
第2章 第3次札幌市食育推進計画の取組と評価 IV 札幌市の食育の現状と課題	
【朝食を欠食する子ども(小学6年生)について】 ○ 「資料：全国学力・学習状況調査実施報告書」とありますが、この数値は全国か札幌市のものですか。	数値は札幌市のものです。 計画本書には、「資料：全国学力・学習状況調査実施報告書(札幌市教育委員会)」と記載します。
○ 市民の1日当たりの食塩摂取量はどのくらいですか。	20歳以上における1日の食塩摂取量の平均値は、9.5gです。詳細につきましては、市公式ホームページに「札幌市民の健康と栄養の現状」(令和4年札幌市健康・栄養調査報告書)を掲載しておりますので、ご覧ください。
第4章 施策の体系と展開 III 施策の展開(行動計画) 基本目標1 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進	
基本的施策1 ライフステージに応じた健康寿命の延伸につながる食育の推進	
【共食】 ○ 共食を推進するための具体的な政策(事業)などは、どのように検討していますか。 ○ 共食についての目標値が高いと思います。(類似意見1件)	家族が食卓を囲んで共に食事をとりながらコミュニケーションを図ることは、食育の原点です。 しかし、家庭環境や生活の多様化により、家族との共食は難しいが、共食により食を通じたコミュニケーション等を図りたい人にとって、様々な人と共食する機会を持つことは重要であると考えています。 新型コロナウイルス感染症の影響により、短期的には地域等での共食を積極的に推進することは困難な状況であるものの、共食が本来、会話やコミュニケーションが増えること、食事がおいしく楽しく感じられること等のメリットがあり、多くの市民がそのメリットを感じていることから、「新しい生活様式」のもと、共食する人の割合を増やすことを指標として引き続き取り組みます。
【減塩】 ○ 減塩に取り組んだほうが良いと思います。 ○ 「免疫力の低下」を引き起こす等の減塩は不要ではないでしょうか。	国等の研究結果では、「食塩摂取量」は生活習慣病との関連についての科学的根拠が多いとされています。 減塩に関する取組を一層推進する必要があるため、指標とし、望ましい食習慣と適切な栄養摂取をすすめる取組や栄養バランスのとれた食生活の実践の取組の中で、減塩について啓発してまいります。

意見の概要	札幌市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ○ 食料の値上げにより、バランスのとれた食事の用意が難しいと思います。 	<p>一例として、地産地消や旬の食材を上手に組み合わせることで、栄養バランスをとりつつ、食料費を抑えることにつながりやすくなりますので、ぜひ参考にしてみてください。</p>
<p>【朝食について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 朝食を食べる時間がないです。 ○ 朝食を欠食する人の割合を減らすのは難しいと思います。 ○ 朝食の欠食を改善できるように環境を整えると良いと思います。（類似意見2件） 	<p>朝食欠食の理由は、「食欲がわからない」「時間がない」「朝食を食べるより寝たい」が多いです（参考：「朝食を食べない最も大きな理由」（本書9～10ページ））。</p> <p>朝食を毎日食べることは、健康的な生活習慣の確立につながり、生活リズムと体内リズムを整える上で非常に大切です。就寝時間や起床時間との関連性が見られることから、引き続き「早寝早起き朝ごはん運動」の推進（平成18年～文部科学省）等と一体的に取り組み、改善を図る必要があります。</p> <p>しかし、依然として、小学生の朝食欠食率が減少していないこと、また、20～30歳代の若い世代が他の年代と比較して朝食欠食率が高いことなどから、啓発方法の工夫・強化の必要があると考えており、引き続き保護者に対する啓発・情報提供を行っていくほか、手軽にできる朝食の普及・啓発のためのレシピ集の発行、「高校生のための食生活指針」を活用した啓発等に取り組んでいくこととしております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学生に食に対しての重要性や健康への影響をしっかりと教育した方が良いと思います。 	<p>本市のすべての小学校では、栄養教諭が中核となって教職員と連携を図り、給食時間や各教科等と関連付けながら学校教育活動全体を通じて、「食」の大切さ等について食指導を行っています。引き続き、食に対しての重要性や健康への影響も含め食指導を行ってまいります。</p>
<p>【食への関心について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 働く世代への啓発は課題が多いと思います。 	<p>本計画では新たに企業等の市民や従業員に対し、協力を得ながら健康的な食生活の普及啓発を進め、食生活を見直す機会を増やすなど、市民の食育への関心を高める活動に取り組んでまいります。</p>

意見の概要	札幌市の考え方
	<p>学校」という講座を開催しています。引き続き市民が農や食についての理解が深まるような取組を進めてまいります。</p>
<p>【さとらんどについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 来園者数を増やすための具体的な取組案（5件） ○ 指標「さとらんどに来園者数」の目標値が高いと思います。（類似意見6件） 	<p>さとらんどの広報については、公式HPに加え、SNS(LINE、Instagram、facebook、YouTube)を利用していますが、来園者数を増やすため、広報が重要であると認識しています。今後も、施設の認知度の向上やイベント開催の周知がより一層図れるよう、様々な年齢層に向けた情報発信について心掛けていきたいと思います。</p> <p>記載の来園者数の現状値は、新型コロナウイルス感染防止対応の施設閉鎖等、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている年度の数値です。目標値については、過去の新型コロナウイルス感染症の影響がない実績をもとに設定しております。</p>
<p>基本的施策2 環境に配慮した食生活の推進</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「食品ロスを少なくする社会環境づくり」について、札幌市などが開催するイベント等での食品ロスが多いのではないのでしょうか。 	<p>夏まつりやオータムフェストなどの大型イベントにおいて、イベントの公式パンフレットに広告を掲載したり、会場内にポスターを掲示したりするなど食品ロス削減に関する啓発活動を行っています。今後もこれらの機会をとらえて食品ロス削減について啓発を行ってまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちで収穫するだけではなく、野菜の皮などの使い方など食品ロスに関する取組にもう少し力を入れたらいいと思いました。（類似意見1件） 	<p>市公式ホームページ「食育情報」では、調理や後片付けの時に、できるだけ捨てるものを少なくしたり、排水を汚さないようにして、環境への負担を少なくした食事づくり「エコクッキングレシピ」などを紹介しています。野菜の皮などの捨てる部分を利用したレシピを掲載しております。今後も取組を進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 食料の生産段階における環境負荷についての情報が市民には行き届いていないと感じました。食の選択、消費行動が未来の環境にどれだけ影響を与えるかといった情報発信も大切だと考えました。 	<p>食生活が自然の恩恵により成り立っていることや食料の生産から消費に至る食の循環を意識し、生産者をはじめとした多くの関係者により食が支えられていることを理解することが大切と考えております。</p> <p>食べ残しや食品廃棄等の大量の食品ロスにより、環境への大きな負荷を生じさせていること</p>

意見の概要	札幌市の考え方
	から、食品廃棄物の発生抑制をさらに推進するとともに、食べ物の大切さについての啓発が必要であると考え、市民一人ひとりが意識できるような情報提供を行ってまいります。
基本的施策3 「食」の安全・安心の確保の推進	
<p>【食に関する消費生活講座】</p> <p>○ 講座にすると若い人たちはあまり来ないと思うので、SNSで発信など手軽にできるものにしたほうがいいと思います。</p>	<p>「食に関する消費生活講座」は、例年、高齢者や障がい者団体、教育機関等からの申込みによる講師派遣講座の実績があり、また、募集型の講座の申込み者数も一定数あることから、継続して実施してまいります。</p> <p>しかし、いただいたご意見のとおり、若年者の講座受講率は、高齢者に比べると低いため、SNS等を活用した情報発信についても取り入れて啓発してまいります。</p>
<p>【「食」の安全に関する情報の発信について】</p> <p>○ 有名アニメなどとコラボし、SNSを活用するとういと思います。（類似意見2件）</p>	<p>情報発信手法については、発信対象や状況等に応じて、ホームページや紙媒体のほか、SNS等様々な啓発媒体を活用してまいります。</p> <p>また、発信内容についても、市民の皆様に関心を得られるような企画を検討してまいります。</p>
<p>○ 食育指導の食中毒の中に「保管場所による食中毒の危険性について」をいれたらどうかと思います。</p>	<p>保育所等の職員を対象として行う食品衛生研修会において、調理後の食品の適切な温度管理等についての情報提供を行っています。</p> <p>引き続き保育所等への情報提供を行ってまいります。</p>
<p>○ 「食の安全・安心の確保」は何をするかわからないので、具体的に書いたほうが良いと思います。</p>	<p>計画本書では、食中毒の予防や食品表示に関することなど、目標を達成するために各関係部署が今後取り組んでいく内容を記載しています。</p>
<p>第4章 施策の体系と展開 III 施策の展開（行動計画）</p> <p>基本目標3 食育推進体制の整備</p>	
<p>基本的施策1 食育推進体制の整備</p>	
<p>○ ボランティアを広めるため、ポスターや呼びかけをしてはどうでしょうか。（類似意見1件）</p>	<p>広報さっぽろや市公式ホームページ、イベント開催時にボランティア募集の周知を行っているところです。今後も効率的な周知方法を検討してまいります。</p>

意見の概要	札幌市の考え方
計画全体	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本理念や目標を分かりやすく、取組も実現可能だと思います。ただ、どの場面においても、「時間がない」「余裕があるのか」が疑問に思います。 	<p>食育は特別なものではなく、日常の身近なこと（学校給食、1日3食食べることなど）から実践できるよう関係団体と連携し、働きかけを行ってまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ わかりやすいレイアウトにしてほしいです。（類似意見1件） 	<p>資料作成の際には、いただいたご意見を参考にさせていただき、レイアウトの修正やイラスト追加等わかりやすい内容となるよう検討します。</p>
その他	
<p>【給食】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 給食の味の改善を求めます。 ○ 給食で郷土料理を増やしたら良いと思います。 	<p>本市の学校給食は、文部科学省が示す学校給食食事摂取基準に基づいて本市の基準を定め、栄養価、衛生管理、地産地消、安全安心な食材の選定など、総合的に判断した上で給食を実施しております。</p> <p>引き続き、児童生徒にとって、心身ともに健全な成長につながるような給食提供を行ってまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 食についての学び、気づきがありました。今後、自分自身や家族の食生活を見直したり、自分たちにできる食育を実践したいと思います。（類似意見4件） ○ 広報や周知方法についての具体案（13件） ○ 取組方法の工夫の具体案（18件） ○ 良い取組だと思いました。（類似意見7件） 	<p>いただいたご意見は、今後の事業の参考とさせていただきます。</p> <p>市民一人ひとりが「食」に関心を持ち、積極的に「食育」を推進していくことが、本計画の推進にとって大切なことと考えます。</p> <p>今後も、より多くの市民の方々に役立つ情報の発信に努めてまいります。皆さまもぜひ一緒に取り組んでまいりましょう。</p>

■パブリックコメント(子どもの意見)概要とそれに対する札幌市の考え方

意見の概要	札幌市の考え方
第2章 第3次札幌市食育推進計画の取組と評価 IV 札幌市の食育の現状と課題	
<p>○ なぜ朝食をとらないのでしょうか。(類似意見1件)</p>	<p>朝食欠食の理由は、「食欲がわからない」「時間がない」「朝食を食べるより寝ていたい」が多いです。</p> <p>朝食を毎日食べることは、健康的な生活習慣を身に着けることにつながり、生活リズムと体内リズムを整える上で非常に大切です。引き続き、みなさんをはじめ保護者に対する啓発・情報提供を行っていくほか、手軽にできる朝食の普及・啓発のためのレシピ集の発行、「高校生のための食生活指針」の配布等を通じて情報提供などに取り組みます。</p>
<p>○ 札幌市民の現状(小学6年生の朝食欠食率、野菜摂取量、小学5年生の共食)がすべて目標値に届いていないと思います。(類似意見2件)</p> <p>○ 野菜の値段が上がっているので、家庭で十分に野菜を食べていないと思います。</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症の影響や家庭等の事情もあり、改善は難しいと思います。(類似意見2件)</p> <p>○ 共食の情報提供だけでも助けになると思います。</p>	<p>ご意見のとおり、全て目標値には達していません。本市ではこれまで、学校をはじめとして、保育所、幼稚園、各区保健センター等において、朝食摂取、野菜摂取、みんなで楽しく食べる共食の啓発を行ってきました。</p> <p>目標の達成に向けて、引き続き、望ましい食習慣と適切な栄養摂取、栄養バランスのとれた食生活の実践、楽しく食卓を囲む機会の拡大に向け、取組を推進します。</p>
<p>○ 市民がどれだけ5大栄養素をとっているか調べることで、意識して食事を食べる人が増えると思いました。</p>	<p>本市では、市民の食生活の現状を把握し、健康づくりや食育の推進に役立てることを目的として札幌市健康・栄養調査を令和4年度に実施しました。</p> <p>調査結果をもとに、市民の食生活の課題を改善できるよう啓発を行います。</p> <p>なお、調査結果については市公式ホームページに「札幌市民の健康と栄養の現状」(令和4年札幌市健康・栄養調査報告書)を掲載していますので、ご覧ください。</p>

意見の概要	札幌市の考え方
第4章 施策の体系と展開 III 施策の展開 (行動計画) 基本目標 1 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進	
基本的施策 1 ライフステージに応じた健康寿命の延伸につながる食育の推進	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 食育に関心がある人が増えるように、食育に関する授業を増やすと良いと思います。 (類似意見 4 件) 	<p>学校では、各教科等の時間で食育に関する授業を進めています。今後も、栄養教諭が中核となり、教職員と連携を図りながら給食の時間や学校教育活動全体を通して食に関する指導の充実を図ります。</p>
<p>【朝食摂取について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中学生になってから意識を変えて毎日朝食を食べるようになると、朝から体が温まり、すぐに腹痛や頭痛にならなくなりました。全校に朝食を食べることなど、食育を知ってもらうことで学校の雰囲気も良くなると思います。(類似意見 2 件) ○ 朝食指導は変わらないと思うので、計画案を変えたほうが良いと思います。 	<p>朝食摂取は生活習慣と密接な関係があります。朝食をおいしく食べるためには、早寝早起きなど毎日の生活リズムを整えることや飲み物や果物だけでも口にする習慣を付けていくことが必要です。</p> <p>小学生の朝食欠食率を減らすためには、朝食の大切さについて、みなさんや保護者に、繰り返し伝えていく必要があると考えます。</p> <p>今後も市民の健康づくりにつながるような情報発信に努めます。</p>
<p>【共食について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 共食を大切にし、共食をすることで食べる楽しさや大切さに気付けるとと思います。 (類似意見 3 件) ○ 共食の場を提供してはいかがでしょうか。 (類似意見 1 件) 	<p>ご意見のとおり、家族が食卓を囲んで共に食事を取りながらコミュニケーションを図ることは食育の原点であり、大切なことだと考えています。</p> <p>しかし、暮らし方や社会環境が変化し、一人暮らしなどが増え、家庭生活の状況が様々に分かれる中、家族との共食が難しい人も増えていきます。家族はもちろん、友人や職場の仲間、地域の人などとの共食の機会が増え、コミュニケーションや豊かな食体験につながるよう、様々な機会を通じて共食の啓発・共食の場の情報提供を行います。</p>
<p>【札幌市お弁当プロジェクトについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ お弁当プロジェクトについて、「地元の食材を使うこと」「栄養バランス」などを条件にしてはいかがでしょうか。 ○ 実施方法として、レシピの募集だけでなく、調理実習も行ってはいかがでしょうか。 	<p>レシピコンテストの応募条件に「栄養バランスを考えたもの」「北海道産食材を 1 品以上使用」などの条件を設けております。例年、多くの素晴らしい作品を応募いただいております。今後も多くの方に参加いただきたいと思います。</p>

意見の概要	札幌市の考え方
	調理実習などの実施方法については、今後の参考にさせていただきます。
○ 「企業との連携による食育推進事業」「共食の情報提供」について、誰にどのような情報を提供するか明確にすべきだと思います。	「企業との連携による食育推進事業」については、市民や企業等の社員を対象にし、健康的な食生活等に関する取組や情報提供を行います。 「共食の情報提供」については、市民に対し、共食の大切さや子ども食堂など共食できる場所について情報提供を行います。
第4章 施策の体系と展開 III 施策の展開（行動計画） 基本目標2 食の循環や環境・安全を意識した食生活の推進と食文化の継承	
基本的施策1 「農」とのふれあいと通じた食育の推進	
【農業体験について】 ○ 農業体験のようなものがあると、理解がより深まって、食育に興味ができるのではないかと思います。（類似意見9件）	子ども学習農園の活用や認定市民農園の開設、さとらんどでの収穫・加工体験など、市民が気軽に自らが収穫した農産物の加工・調理を学び味わうことを通じて、引き続き、農業体験等を含めた一体的な「食」への理解を促進していきます。
【地産地消について】 ○ 「北海道産食品（米など）や札幌産の食品を利用する人」について、目標を達成できるように販売店や飲食店での利用を増やすと良いと思いました。（類似意見1件） ○ 北海道産（札幌産）の食材を食べようと思いました。（類似意見8件）	本市では、環境・安全安心に配慮された札幌の農産物であることを消費者に知ってもらう産地表示制度「さっぽろとれたてっこ制度」により地産地消を推進しています。札幌産農産物の市内消費拡大につながるよう、今後も努めていきます。
【さとらんどについて】 ○ さとらんどの来園者を増やすため、イベント等のチラシを配布すると良いと思いました。 ○ さとらんどの特徴を資料として配布すると良いと思いました。	さとらんどの入場者数を増やしていくため、SNS（LINEなどのインターネット上のサービス）の積極的な利用やイベント情報のチラシの配布に加え、施設の紹介など、さとらんどを広く知っていただくための広報に力を入れていきたいと思っています。
基本的施策2 環境に配慮した食生活の推進	
○ 食品ロス削減の啓発として、関係する動画やポスターを作成してはいかがでしょうか。（類似意見4件）	食品ロスを減らすことは重要と考えており、YouTubeで食品ロス削減についての動画の公開、また、出前講座の実施やパンフレットによる食品ロス削減の啓発を行います。 これからも市民の皆さまが食品ロスの削減に取り組めるよう、さまざまな啓発を行います。

意見の概要	札幌市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境に配慮した食生活の推進で、具体的な取組を知りたいと思いました。 ○ 家庭の生ゴミ減量のために冷蔵庫を片付けるという取組が良いと思いました。 	<p>「環境に配慮した食生活の推進」の具体的な取組については、計画本書に冷蔵庫の上手な利用方法などを記載していますので、ご覧ください。</p>
<p>【さっぽろ学校給食フードリサイクル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 残した食べ物がどうなっているか掲載したほうが良いと思いました。(類似意見2件) ○ これからも継続してほしいと思いました。(類似意見1件) 	<p>さっぽろ学校給食フードリサイクルについては、給食だよりに掲載したり、給食時間や各教科等と関連付けた授業などで指導を行っています。引き続き、児童生徒のみならず、家庭や地域の方々にも知っていただけるよう、情報提供を行います。</p>
<p>基本的施策3 「食」の安全・安心の確保の推進</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「食の安全や衛生についての啓発」について取組は良いと思います。添加物などについても指導すると良いと思いました。 	<p>本市の学校給食は、加工品は不要な食品添加物等を使用していないものを選び、野菜や果物は極力農薬の使用量を減らしたものを選定するようにし、安全・安心な給食提供に努めています。</p> <p>栄養教諭等が行う食指導においても、食の安全や衛生管理について関連した内容を取り扱っています。</p>
<p>基本的施策4 食文化継承のための活動への支援</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 給食でも食文化を大切にしているすごいと思いました。 ○ 食文化の違いもいれると良いと思いました。 	<p>本市では、学校給食に郷土料理や行事食を取り入れて食指導を行っています。</p> <p>また、給食だよりや給食試食会等を通じて、保護者に対し伝統的な食文化についての情報提供を行っています。</p> <p>引き続き、食文化への理解と関心を高められるよう食指導を行います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「伝統的な食文化」に取り組めるように工夫してほしい。 	<p>今後も学校給食や地域の料理教室等を通して、伝統食や郷土料理、だし文化等、伝統的な食文化の普及啓発を行います。</p>
<p>第4章 施策の体系と展開 III 施策の展開 (行動計画) 基本目標3 食育推進体制の整備</p>	
<p>基本的施策1 食育推進体制の整備</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 食育推進に関する会議について、関係機関だけでなく小・中学生等の意見を取り入れてみてはいかがでしょうか。 	<p>今後の参考にさせていただきます。</p>

意見の概要	札幌市の考え方
○ ボランティアの周知方法について、チラシ配布やまちなかでの呼びかけを行ってはいかがでしょうか。（類似意見2件）	広報さっぽろや市公式ホームページ、イベント開催時にボランティア募集の周知を行っているところです。今後も効率的な周知方法を検討していきます。
計画全体	
○ 目標達成のために、何をしたらいいか具体的に書くと良いと思いました。（類似意見1件）	計画本書では、目標を達成するために各関係部署が今後取り組んでいく内容をわかりやすく記載するよう努めます。
○ 健康的な食生活を送るためにどのようなものを食べたら良いか知りたいです。（類似意見7件）	市公式ホームページに、朝食や野菜料理、減塩メニューなどのレシピを掲載していますので、ぜひご覧ください。
○ 子どもにも読みやすい、興味を引く内容やレイアウトにしてほしいです。（類似意見9件）	小・中学生向けの資料作成の際には、いただいたご意見を参考にし、分かりやすく、興味を引く内容となるよう検討します。
その他	
【具体的な取組案】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 朝食の摂取について（15件） ○ 野菜摂取量の増加について（9件） ○ 食べることの大切さについて（4件） ○ 好き嫌いをなくすための方法（2件） ○ SNS等を活用した情報発信方法 ○ エコクッキング等のレシピについて（2件） ○ 計画全体にかかる取組（4件） 	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
【給食について】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 給食メニューや味について(類似意見14件) ○ 給食時間を増やしてほしいです。（類似意見1件） ○ 給食時間の後に昼寝時間を確保してほしいです。 ○ 栄養バランスの勉強のため、バイキングを取り入れてはいかがでしょう。 ○ 給食の残食量を減らすための具体的な取組案（23件） ○ 給食の量が多いと思います。（類似意見1件） ○ 食文化への関心を持てるように、日本の食文化（抹茶など）を取り入れたら良いと思います。（類似意見2件） 	<p>学校給食に関して、様々な意見等をお寄せいただきありがとうございます。</p> <p>本市の学校給食は、文部科学省が示す学校給食食事摂取基準に基づいて本市の基準を定め、栄養価、衛生管理、地産地消、安全安心な食材の選定など、総合的に判断した上で給食を実施しています。</p> <p>また、栄養教諭が中核となって教職員と連携を図り、給食時間や各教科等と関連付けながら学校教育活動全体を通じて、「食」の大切さ等について食指導を進めているところです。</p> <p>引き続き、児童生徒にとって、心身ともに健全な成長につながるような給食提供及び食指導を行います。</p>

意見の概要	札幌市の考え方
<p>○ 食についての学び、気づきがありました。今後自身や家族の食生活を見直したり、自分たちにできる食育を実践したいと思います。（類似意見 58 件）</p> <p><具体的な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝ごはんを食べようと思いました。 ・ 食品ロス削減のため、残さず食べようと思いました。など <p>○ 良い取組だと思いました。（類似意見 24 件）</p> <p>○ 資料がわかりやすかったです。（類似意見 13 件）</p>	<p>市民一人ひとりが「食」に関心を持ち、積極的に「食育」を推進していくことが、本計画の推進にとって大切なことと考えます。</p> <p>今後も、より多くの市民の方々に役立つ情報の発信に努めます。皆さんもぜひ一緒に取り組んでいきましょう。</p>

市政等資料番号
01-F06-23-2322